



東京島しょ 郷友連合会だより

21号

【発行 者】
東京島嶼郷友連合会

【発行・編集責任者】
梅田 勉

【制作・印刷】
オフィスYK



《ごあいさつ》

東京島嶼郷友連合会

会長 梅田 勉



二〇二六年新春を迎えて
令和七年五月第六十回
総会において、会長に推
挙され就任いたしました
梅田 勉(利島出身)です。
令和八年新春を迎えま
した。東京諸島のみな様
にとつて災害のない希望
に満ちた年となりますよ
う心よりお祈り申し上げ
ます。

昨年は十月に八丈島青
ヶ島に台風が押し寄せ、
甚大な被害をもたらしま
した。長引く物価高騰が
深刻さを増す中にあつ
て、台風災害が追い打ち
をかけました。被災され
たみな様が一日も早く日
常を取り戻せることを願
っています。

昭和六十一年大島三原
山噴火、平成十二年三宅
島雄山噴火、平成二十五
年大島土石流災害、令和
元年九月大島・新島台風
災害時では会では、いず
れも街頭募金活動を行

ましたが、今回は手紙等
で募金活動を行い、町村
長にお見舞金をお届けし
ました。

島嶼郷友連合会では
「ふるさとに思いを寄せ、
東京諸島をつなぐ架け橋
になる」ことを活動の基
本テーマとしています。
思いやりの心を育み、東
京諸島出身者と島々をつ
ないでゆくため、これか
ら各島郷友会と連携し
て友情の輪を広げていき
ます。

昨年は六十周年記念事
業として小笠原諸島を訪
問、父島・母島の方々と
交流することができまし
た。世界自然遺産に触れ
ることもでき島巡り旅行
の集大成となりました。
今年も島々との交流を
更に発展させてゆくと
め、各島町村役場に郷友
会担当者を置いていただ
くことを推進します。

また、島の小中学校生
徒に参加していた、たく環
境問題をテーマとする
「地球さんご賞」への参加
推進と御蔵島、青ヶ島、小
笠原への加入も推進して
参ります。

引き続きみな様のご支
援を心からお願い申し上
げます。

大島郷友会 会長

白井 勝美

新年明けましておめで
とうございます。なか
なかお役に立てず申し訳
ありません。大島会では
「二年に一度お会いしま
しょう」をテーマとして
おります。総会親睦会で
お待ちしております。
本年もみな様のご多幸
を心よりお祈り申し上げ
ます。

新島郷友会 会長

大沼 傳次郎

二〇二六年が幕を開け
ました。本年がみな様
にとつて希望に満ちた明
るい年でありますよう心
よりお祈り申し上げます。

昨年は八丈島、青ヶ島
で大きな台風災害があ
り、大きな影響がまし
た。島しょ地域では今後
南海トラフ地震と津波の
発生が予想されていま
す。災害のない年であつ
てほしいと強く願ってい
ます。

神津島郷友会 会長

清水 邦洋

新年あけましておめで
とうございます。本年は
果してどんな年になるの

か、令和八年が飛翔の年
になれば幸いと思うもの
です。昨年後半の八丈島
青ヶ島台風災害には気持
ちが沈むばかりでした。
読売新聞に神津島漁協
で「キャビア」の生産に
乗り出す記事が掲載され
ていました。海水温暖化
に伴う伊勢海老の不良に
変わる産業になつてもら
いたいと感じました。
本年もみな様のご健勝を
お祈りいたします。

三宅島郷友会

高松 英夫

明けましておめでとう
ございます。

本会は三宅島伊ヶ谷地
区出身者が集まり、昭和
三十四年四月から伊ヶ谷
会としてスタートしまし
た。その後他地区にも会
が結成され三宅島郷友会
として活動するようにな
りました。

会員の高齢化と若者の
意識の変化と相まって
年々参加者の減少してい
る状況ですが、「自分の
ルーツは島にある」こと
を忘れずそのつながりを
大切にしようという若
いが立ち上がっています
ので今しばらく時間が欲
しいところです。

八丈島郷友会 会長

菊池 順

新年あけましておめでとうございます。

昨年は八丈島にとって歴史的な一年となりました。十月に伊豆諸島南部を連続して通過した台風が八丈島に甚大な被害をもたらしました。生活と観光両面で大きな影響が出ましたが、島民一丸となつて復興に向け前進しております。みな様に多大なご心配をいただき、またお見舞いをいただき誠にありがとうございます。今後とも引き続き応援をよろしくお願い申し上げます。

島嶼郷友連合会 理事長

河野 秀夫

新年あけましておめでとうございます。

昨年の六〇周年記念総会には多くの皆様のご参加を賜りありがとうございました。また「小笠原の島旅」も実施できました。今後とも皆様が楽しく島とつながる事業を展開したいと思ひます。本年も皆様のご健勝ご多幸を祈念いたします。

令和七年度

理事長 河野 秀夫

郷友連合会の活動計画と会議報告

昭和四〇年に発足した当会は令和七年に六〇周年を迎えました。

昨年五月十一日(日)にアルカディア市ヶ谷で記念総会と懇親会を開催しましたので報告します。

総会は直木賞作家の安部龍太郎氏、歌舞伎・竹本葵太夫で人間国宝の竹本葵太夫本名柳瀬信吾氏をはじめ都議会議員三宅

正彦氏、大島町長坂上長一氏、神津島村長前田弘氏、八丈島町長山下奉也氏など多くのご来賓をお招きして総勢七十一名で盛大に開催しました。

令和七年度の事業は、六〇周年記念として小笠原父島・母島の連合会加入を実現すべく小笠原旅行を実施すること、安部氏の講演を機に、東京島嶼の小・中学校の児童生徒に参加してもらい地球さんご賞と環境問題作文運動を展開していきたいこと、昨年に引き続き、足を使い汗をかいて島々との交流推進、各島郷友会の活動の充実と支援、連合会だよりの発行と充実等、いつまでも生まれ育った島を心の支えに、「故郷に思いを寄せる」という基本的精神に基づく八つの活動を承認いただきました。

総会終了後の安部氏による六〇周年記念講演会では、大島や八丈島との関わりや歴史史観を親しみやすい語り口でお話して頂きました。

懇親会は、竹本氏の近況挨拶と乾杯で厳かに始まり、町村長からは島の現況スピーチを頂きました。恒例の各郷友会長による出席者紹介のテーブルスピーチはいつもながら笑いとい人情味溢れる紹介となりました。そして町村長と各会長からご寄付頂いた焼酎やワイン等で喉を潤した各テーブルの皆さんは、一年振りの総会で会話も弾み賑やかな懇親会となりました。

時間は瞬く間に過ぎてお開きの時間となりましたが、皆さん久しぶりの再会で名残惜しさもあったようで、その後は市ヶ谷近辺で二次会に流れていきました。

今年も、島出身者の交流・懇親の場として、四月に総会を開催します。各島の在京者の皆さんにお声がけいただいて島の話で盛り上がりたと思います。多くの皆様に参加して頂ければ幸甚に存じます。

《第六十一回定期総会》令和八年四月二十六日(日)アルカディア市ヶ谷 四階 鳳凰の間 同級生などお誘い合せの上ご出席ください。

八丈島・青ヶ島台風災害募金活動

東京島嶼郷友連合会

会長 梅田 勉

十月に伊豆諸島南部を通過した台風二十二号が八丈島と青ヶ島に甚大な被害をもたらした。被災されたみな様に心からお見舞いを申し上げます。

小笠原諸島の西の海域を北上しながら気象庁の想定以上に発達した。進路上の海面水温が平年より二度程度高く、多くの水蒸気が供給されたことが一因とみられる。屋根の損壊や倒木が相次ぎ、暴風と豪雨で電気・水道・通信等のインフラが大きく損なわれ、避難所には泥水が押し寄せました。住民は濁流の中を避難したが人的な被害はありませんでした。

自衛隊と海上保安庁による物資輸送が行われ、航空自衛隊輸送機で水タンク車が到着し給水活動も行われました。生活と観光の両面で大きな影響を受けました。

島嶼郷友連合会では理事會を緊急招集し、十一月末まで募金活動を行いました。

六年前(二〇一九年)に大島・新島を襲った台風災害の折にも募金活動を行いました。今回も多くの募金を寄せていただきました。ありがとうございました。

十二月に入り、八丈島町長に直接お会いしました。みな様からの義援金をお渡ししました。青ヶ島については郵便でお届けしました。町村長から「温かいご支援に感謝します」とのお礼のお言葉がありました。

「ふるさとに寄せる思い」が今回の募金活動でも東京諸島をつなぐ架け橋になりました。これからもふるさとを思う心が届く活動を続けてまいります。



新島で南海トラフ地震を 想定した大規模訓練を実施

新島郷友会会長 大沼 傳次郎

近い将来の発生が懸念される南海トラフ巨大地震を想定し、東京都新島村で十二年ぶりとなる大規模な津波防災訓練が行われた。

十一月十五日朝、島に防災無線が響き渡った。東京都と新島村は合同でマグニチュード九クラスの地震を想定した訓練を実施。多くの地元住民や、発生後に応援要請を受けて島に向かう想定した自衛隊、消防、警察など約千人が参加した。

「臨時情報の」発出から訓練が開始。高台にある都立新島高校の体育館では中学生らがテントを設営、開設された避難所には続々と住民たちが集まってきた。

地震発生直後の想定では、島には災害救助に特化した部隊などはないため、住民や現地に警察、消防団などが初動対応に当たった。その後最大二十四メートルの津波が想定される新島港には、島外から応援要請を受けた

自衛隊ヘリコプターが出動。津波避難タワーで孤立した住民らを上空からロープで吊りあげて救助した。

海側からも、水上バイクや潜水士などが引き波で流された被災者を救出し、海上保安庁の巡視船や東京消防庁の消防艇に収容していた。

島内にはがれきに埋もれた家屋や横転した車など浸水区域を想定した訓練場が設けられ、自衛隊や警視庁の特殊救助隊、消防のハイパーレスキュー隊などが警備犬や重機を用いながら搜索した。

南海トラフ巨大地震は今後三十年以内にマグニチュード八・九の地震が発生する確率が六十％、九十％程度以上とされる。東京都の被害想定によると発生から約十七分で最大二十

七メートルの



津波が到達する恐れとされ、最悪の場合新島の人口約二千人のうち、四割の八百人が命を奪われる可能性があると考えられている。伊豆諸島周辺の島でも短時間のうちに十メートル超えの津波が予想されている。多くの自治体が行政区域に大小の島を抱えています。津波からの迅速な非難は共通の課題となっている。新島は都心から大型船で約十時間、離れていることでオペレーションが格段に難しくなる、と孤立の可能性を不安視する。

支援に限りがある離島では、地震発生後には地元の警察や消防団などで初期対応に当たするため、住民主体の防災体制づくりは不可欠である。

（産経新聞十一月十七日付朝刊記事を活用した。）

万博に利島椿の花が登場

東京島嶼郷友連合会 梅田 勉

大阪市の夢洲（ゆめしま）で開かれた大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、一五〇に上る国と地域が参加しました。

迎賓館で朝焼けの海に浮かぶ島を和紙で表現した作品が海外の賓客を出迎え評判になりました。制作した方は富山県立山町に在住の川原隆邦さん（四十三）です。

川原さんは国指定の伝統的工芸品「越中和紙」の一つで、約四百年の伝統を持つ「蛭谷（ひるだん）和紙」唯一の継承者。万博に向け三年ほど前から牧草や花、稲穂などの素材を全国から集め、迎賓館のエントランスの壁面を飾る和紙アートの準備を進めました。

迎賓館では全国各地の名産を和紙で表現した七作品を順次衣替えしながら展示しました。

第一弾の東京をテーマにした作品は漆黒の中で朝焼けに浮かぶ伊豆諸島の利島が浮かぶ様子を和紙の原料となるコウゾと島特産の椿の花びらをす

き込んだ和紙の作品で、利島に足を運んだ川原さんが見た美しい島の風景を描いたものです。

川原さんは全国七つの地方の作品に統一性を持たせ、日本が一つにつながっていることを表現したかったと話しています。小さな利島が取り上げられたことに感銘を受けました。

川原さんはプロサッカー選手を目指したが、上には上がいると数年で夢に区切りをつけ、富山県に伝わる蛭谷和紙の後継者が途絶えかけていると聞き、唯一の継承者を訪ねました。透き通るような薄さなのに丈夫で、障子に張ると柔らかな明るさが出る。唯一の継承者が地道で丁寧な工法と長い歴史を一人で背負ってきたことに衝撃を受け、弟子入りを願

い出て伝統の製法と紙すきの技術を教わりました。

継承者とはなりませんが、生計を立てるのは厳しく、アルバイト

先の動物園で着想を得て制作の方針を転換し、伝統工芸の枠にとらわれず、お客さんに見せる作品を作ることになりました。

二〇一一年、富山市天文台で開かれた展覧会で天体をテーマにした新鮮さが話題を呼びました。その後も、柱や壁面など空間と調和した作品を生み出し、パリで開かれたジャパンエキスポなどに出版。その活躍が万博関係者の目に留まり、従来の和紙にない発想が大阪・関西万博の依頼につながりました。「伝統が生き残るために変化は必要、百年、千年と残る作品を生み出していきたい」。川原さんは独自の発想で挑み続けています。

（読売新聞四月二十七日付朝刊記事を活用した。）



やっぱり

行つて良かつた

小笠原の島巡り旅

理事長 河野 秀夫



当連合会にとって、小笠原に行くことは青ヶ島とともに悲願でした。令和七年は会創立六〇周年であり役員会で話し合つた時、梅田会長から「小笠原交流ツアーで小笠原諸島に行きましょう。」と提案がありました。私は内心長い船旅なので実施は難しいのではと思いましたが、なんと九名もの参加表明（直前で体調不良により一名減）があり「小笠原の旅」を実施することができました。ここでその一端を紹介させていただきます。

小笠原旅行（主催小笠原協会）は一〇月三十一日〜十一月五日の五泊六日（船中二泊）で、総勢六〇名のツアーでした。

おがさわら丸で出発

十一時に竹芝を出航しこれから二十四時間の長い

船旅の始まりです。前日から温帯低気圧と黒潮海流の影響でうねりが大きくなり（八丈島沖からさらに揺れた）、船内は手摺りを持たないと危なくあちこち千鳥足状態で酔いもよく見受けられました。我が八名（梅田、秋廣、大沼、長戸路、岩田、北井、奥澤、河野）も酔いの洗礼を受け、スマホやテレビも映らないので、それぞれ個室ベットの横になったり、ラウンジで過ごしました。

父島に着いた。

小笠原諸島の弟島、兄島の島影がだんだん大きくなり、青い海と暖かく爽やかな風を感じながら南国小笠原に到着しました。港ではツアー一行を村の人達が出迎えてくれ、打込商会長のお迎えで宿泊施設「ホライゾン・ドリーム」に行きま

した。着いた午後には船酔いも何のその、早速「戦跡ツアー」で日本軍の爪痕が残る砲弾、砲台、沈船、塹壕、武器庫跡等を見学しました。特に岩田さんや北井さん（ともに八丈島）はご両親が父島と母島で生活していたので感慨もひとしおだったようです。改めて父島で戦争遺物を垣間見て平和な時代の有難さを実感しました。



島の皆さんとの交流会

夜六時から協会主催の交流会に参加しました。待合所の会場はツアー参加者、村民や役場関係者等多くの人が集まり交流を楽しみました。テーブルは海亀の煮込み、島寿司等の美味しい島料理やビールなど盛沢山のご馳走でした。渋谷村長も参加した南洋踊りや小笠原太鼓の心を込めた温かい演奏を楽しみました。心地良い余韻のまま、渋谷村長、池田議長等と二次会に行き、船旅の疲れも忘れるほど地元の居酒屋で盛り上がりました。



二日目はフリータイム

この日は、ワールドシリーズ最終戦でテレビ観戦も盛り上がりつつあったので、終日フリータイムにして、散策やショッピングを楽しんでもらいました。私のミッションは旅先で歩くことなので、海洋センター↓コペペ海岸砲台壕跡↓境浦海岸の沈没船（泳いだ）↓旭山山頂まで足を使い汗をかい



豪華なディナーに感激

打込会長のご厚意で、夕食は扇浦のホテルホライズンで豪華な和洋折衷のディナーを両日堪能しました。海亀の刺身と煮込みの前菜から始まり、刺身や天ぷら、肉料理を皆でビールやウイスキーを飲みながら過ごした時間は至福の時間でした。



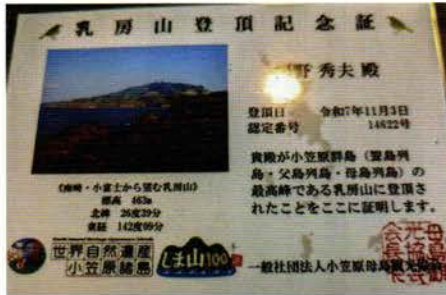
「島ボ」申請で悪戦苦闘

豪華な夕食会は最高でしたが、高価な食事だったので予算がオーバーしそうでした。そこで全員が携帯で「島ボ」申請に挑戦しました。島ボは東京島嶼で使えるお得な電子旅行券で、八万円分の購入で一人二万四千円の割引助成が受けられま

す。でも我々には携帯操作と申請手続きが複雑で想像以上に手間取り酔いも覚めてしまいました。結局翌日までに五名分の助成ができるようになりました。まさかこんなに苦勞をするとは思いませんでした。今となっては頭の体操になりほろ苦い思い出となりました。

母島も訪問しました

総会に出席してくれた宮澤寛さん（母島在住）とご縁がつながり、五〇km離れた母島にも行ってきました。三日の朝七時三〇分に出航したははじま丸で約二時間の船旅です。港では宮澤さんの次女親子が出迎えてくれました。母島は父島と比べて規模や人口も小さいのでさらに人間関係が濃密な気がしました。ロース記念館を見学後、宮澤さんの友人と昼食会を開いて母島の魅力を手柄を実感することができました。二時出航の帰りの船では、カツオドリの群れが見送りするように間近まで飛来してきました。我々を楽しませてくれました。



母島の乳房山を走破

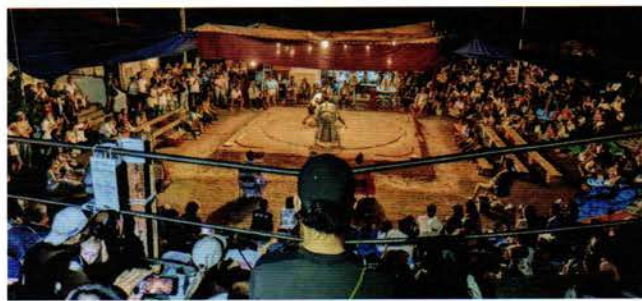
母島では「しま山一〇選」の十五座である乳房山（463m）にどうしても登りたくて走ってきました。途中の尾根は険しく難儀しましたが、頂上から見た母島の集落や姉島、妹島や姪島は見応えのある絶景でした。



驚愕の大神山神社例大祭

ツアーの日程は、毎年大神山神社例大祭にあわせて組まれており、奉納相撲（子供、女性、成人別）、神輿巡行、カラオケ大会が行われます。

私は相撲大会を見たのですが、百三十六段の急な階段を上っていくと村民が全員集まっているかと思うほどの賑やかさと盛り上がりです。夜店や相撲中継のパブリックビューイングまであり、取組も真剣そのもので声援も半端でなく、年に一度の村をあげたお祭りを目の当たりにしました。



ヒジターセンター見学

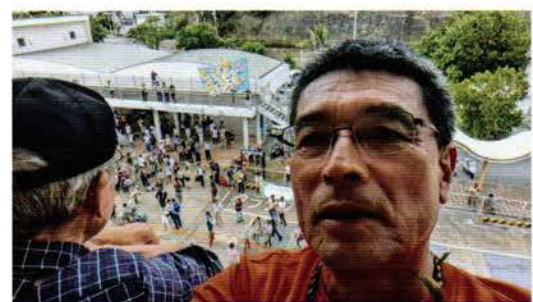
セーボレー家子孫セーボレー孝さんと初対面した翌日、ヒジターセンターを案内しますと言って頂いたので、小笠原の歴史や自然について約一時間説明を受けました。返還前のアメリカ時代と返還後の日本の生活を多感な少年時代に経験している説明は想像を超えるリアルさがあり、記憶に残る見学となりました。

帰りの船も感動と感謝

小笠原の人との出会いと歴史や自然の体験は期待以上に素晴らしいものでした。島での四日間があつという間に過ぎて、思い出とお土産をバッグに詰めて午後三時の出航時間となりました。

二見港桟橋は渋谷村長や打込さんはじめ多くの人達が見送りに集まっています。小笠原太鼓や「行つてらっしゃい」の声援で桟橋は賑やかです。極めつけはフレジャーボートが何艘も連なって並走し、乗っている男性も女性も一斉に真っ青な海にダイビング、小笠原ならではの感

動の見送りです。我々も感謝を込めて思いつき手を振り続けました。



小笠原協会ありがとう

帰りの船旅もこの時期特有の強風と雨模様で結構うねりがありました。でも翌日遠くに青ヶ島や八丈島の島々が見えてくると東京に近づいている実感が湧いてきました。クジラやイルカは見えま



せんでしたが、伊豆七島の島影はいつもの高速船では味わえない感慨深さと愛おしさを感じました。また、改めて、大島（百二十km）、八丈島（二百八十七km）と比べて、小笠原は千km二十四時間長いけれども、また行きたくなる独特の人柄と島の歴史と自然のすばらしさを実感できた船旅でした。

こうして我々の小笠原の島旅は、誰も病氣や転倒等のケガもなく全員元気に帰ってきました。

なお、今回の旅行では、小笠原協会の皆さんが申込みや乗船手続きまで懇切丁寧に教えてくださり大変助かりました。また交流会でも親しく懇談させていただき楽しい時間を共有できました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

利島会秋のイベントは 東京水辺ラインを 水上バスで東京散歩

利島郷友会

石村 昌司

浜松町駅を降り立つと、昭和三十三年に開業した東京タワーがすぐそばに、夜は照明デザインの先駆けであるライトアップが東京の夜景に花を添えています。駅と隣接する旧芝離宮恩賜庭園は大名庭園で現在は都立庭園として開放されています。

江戸の歴史が融合する竹芝周辺は歴史が息づく最先端のスマートシティの開発が進んでいます。日本のミュージカルを代表する四季劇場があり、江戸時代初期に作られた、日本を代表する大名庭園の一つで、海水を引いた「潮入の池」と「三百年の松」が有名な「浜離宮恩賜庭園」があります。年間を通じて国内外から多くの人が訪れます。十一月二十三日(日)東海汽船客船ターミナルから歩いて七分、その浜離宮恩賜庭園のそばから浅草までの六十分間を水上バスに乗り、晩秋の隅田川をライン下りで楽し

みました。静かな水辺を走る水上バスからの両岸の眺めに久しぶりに再開した同級生や恩師との会話がはずみま

した。島で過ごした時代の光景が昨日のようによみがえってきました。利島会は創立して六十五年以上が経ちました。離島という過酷な環境で育った共通の経験を持つもの同士が互いの親睦を図る中で、「ふるさとを思いやる心」を持ち続けることは、時代がどんなに移り変わろうとも持ち続けて行きたいものです。

利島は晴れた日は伊豆諸島の島々を望むことができ、夜は満天の星空を観測できる水平線に浮かぶかけがえのない海の楽園です。冬の利島は二十万本のやぶ椿の花で覆われます。椿油は香り豊かで全国生産量の六割を占め、日本中で利用されています。

利島を離れて五十年以上が過ぎました。記憶に残る故郷はこの家も足らざるものを分け合いみんなが助け合う文化が息づいていました。

島から出て都会で生活する私たちですが、先人たちが大自然と共生しながら育んできた島の生活を懐かしみ、島の人たちを思う心を持ち続けたいと思います。

年に一度、利島会の集まりは今を生きる私たちに忘れることのできない故郷を思い出させてくれる貴重な時間となっています。



八丈島の状況

八丈島郷友会 会長 菊池 順

十月九日(木)の未明台風二二号が八丈島を襲った。午前五時二十四分に最大瞬間風速五四・七Kを観測。二十四時間雨量は、三五〇mmを超えた。

かつてない程の暴風雨により、屋根や壁の損傷や倒木が多数発生した。

台風通過中に停電、断水、電話やインターネットの不通が発生。特に被害が大きかったのは末吉地区である。

避難所になっていた『海・山・暮らし館』(旧末吉小学校)に土石流が流れ込んだが幸い人的被害はなかった。土石流により、通行止めの道路もあります。

二十五日現在停電はほぼ解消されたが、断水は多くの地区で続いています。各地区数ヶ所に給水タンクが設置されており、二十四時間利用可能です。又飲料水の無料配布も行われています。今回の台風被害復興に八丈町は勿論、国土交通省、東京

都が協力して復旧作業を行っている。給水車やお風呂の提供も行われているが、島内では助け合いの輪も広がり、ホテルでは大浴場を無料開放したり、電気屋さんが洗濯機を開放しています。

又・飲食店やキッチンカーが炊き出しを実施、被災者は大喜びでした。ところで私はUターンで三年前に八丈町民になりました。今回の台風は恐怖のあまり一睡も出来ませんでした。私の家は少々の被害で済みましたが、庭木が五本倒れました。

停電は四日目に解消されたが、断水は二週間した二十五日午前十時二十分に復旧しました。炊事、洗濯トイレに不便を感じていたが、これでやっと普通の日常に戻れる



ると安堵しています。

島民は台風には慣れているが、今回の台風は別格と思われる方は多いようです。八丈島と各地区の自治会、老人会の団結の強さを改めて感じた次第です。

行ってみたい島、住んでみたい島を目指して復興して行きます。ご支援を頂いた全国の皆様にご心より感謝申し上げます。

伏してぞ止まん神津魂

神津島 櫻井 秀夫



津エレジ
ー「そ
んな漁師
の顔がい
い」など
故郷の情
緒情景を
思い出し
ながら歌
い続けて

昨年九月、古希を迎えました。人生百年時代にたかが七〇と思われるでしょうが、早世の両親を持つと、古希クリアの感慨は格別のものがあります。さて、我が半生は三刀流でその源流は故郷神津の風俗に行き着きます。

一刀目の音楽。部類の音楽好き両親の影響で島の民謡や昭和歌謡を口ずさみ、法事の念仏の旋律に心揺さぶられた。長じてギターを覚えると田川出身のアーティスト井上陽水に倣いシンガーソングライターに。音楽奉仕活動は五〇年に及びます。

「神津の荒海挽歌」「神

おります我流も継続は力なり。二刀目の剣道。二〇歳の頃、島の青年団活動で始めた剣道。島には稽古相手がいないため都内に武者修行に出かけていました。警視庁東京都庁、都下市町村役場、霞が関など渡り歩きました。「交剣地愛」。剣道を介さねば出会えなかった。だるう元警視総監の土田先生、都庁伊藤先生、農水省橋本先生などから様々な薫陶を賜りました。何度も昇段審査に失敗しながらどうにか剣道教士七段に到達、神津島に剣道の花が開きました。

失敗もまた勉強なり。

三刀目の政治。神津島村役場に十八年奉職、当時の村長松本、佐藤氏の下で行政を学びました。諸事情で福岡県移住を余儀なくされましたが、村長や上司から受けた薫陶は現在の議員活動にも生かされております。

平成十一年の初当選以来六期務めており、議長も経験させて頂きました。当地、田川は政争の激しい土地柄。ポリベスクパワーが必要なり。これら三刀流の根っこは、島の森羅万象で醸成された神津魂と前述しました。

不撓不屈、良樹細根。神津島を離れても神津を思わない日はありません。

壁にぶち当たり窮地に陥った時は、神仏に手を合わせ島の先祖に助けを請う。伏してぞ止まん神津魂。もうしばらく生きて三刀流の利他行を続けてみたいと思っております。

「プロフィール」

昭和三十年神津島生
都立戸山高校卒
前川崎町議会議長
剣道教士七段
シンガーソングライター

球児は島の希望

東京島嶼郷友連合会 梅田 勉

八丈島は、八丈ブルーと称される透明度の高い海（底土海水浴場、南原千畳岩海岸、豊かな緑（八丈植物公園）、八丈富士、温泉（みはらしの湯）、伝統工芸の黄八丈、島寿司、くさや、焼酎など独自の食文化や産業があり、伊豆諸島のなかでも傑出した観光名所として広く知られ、癒しと活気を求める人にとっては魅力的な島です。しかしながら近年急速に進む人口減少の中にあつて、島の魅力を引き出し、島の未来への希望など多岐にわたる魅力を引き出そうと、八丈高校野球部を追った映画が完成し話題になっている。

その美しい自然と島の人々の営みが映画作品に描かれ、夏の甲子園を目指した都立八丈高校野球部のドキュメンタリー映画です。

八丈島は都心から南へ三百キロ、羽田から五十分で行ける南国リゾート感と温かい島民との交流が魅力で、観光、移住、

ビジネスなど様々な面で「希望」を見いだせる島です。

島の形が「ひょっこりひょうたん島」のモデルとも言われます。部員不足に悩む高校野球部を島民が支え、単独チームでの甲子園出場を目指す姿が「島の希望」として映画になりました。完成直後の十月、島は台風で大きな被害を受けたため、復興支援を募るため十二月六日東京練馬区の障害学習センターで上映会が行われ大勢の人たちが訪れました。



他の島の高校は部員不足で出場できないか、連合チームとなるなか、昨年夏の東京大会で八丈高校は離島で唯一、単独チームで出場し、三回戦に進みました。ただ、海を渡らなければ他校と練習試合もできない。練習相手は島の大人たちで、監督の竹花紀俊さん（三十六）もその一人である。海が見える美しい野球場にほれこみ、島の少年たちと野球がしたいと世田谷区から二〇二一年に島へ移住し、八丈高校職員となり野球部の指導を始めた。二〇二〇年春には部員がゼロになったこともあり、単独チームで甲子園を目指せなくなると不安を抱えていた。そんな時、出会ったのが映画製作会社代表の市村剛さん（五一）であった。竹花さんから野球部の話を聞いて「映画にしたい」と申し出た。撮影は四月に始まった。選手は全員で十五人、映画監督は毎週島に通い夏の大会までの四カ月間を記録した。高校生が頑張る姿が島の人たちの元気の源になり、高校生は期待を背負って頑張る。その温かい関係性を感じて欲しいと話している。

島外生徒受入事業が スタート

大島郷友会 会長 白井 勝美

都立大島高等学校が来年度より『島外生徒受入事業』をスタートさせます。

大島町では令和八年四月から、島外生徒受入事業をスタートさせるとのこと。大島町教育委員会、教育文化課から左記の情報を頂きました。

『都立大島高校の活性化や生徒同士が切磋琢磨して、お互いを高めあう環境づくりと、都会ではできない魅力的な体験を子供たちに提供し、大島町の次世代を担う人材育成を目的に島外から留学生を、との事です。』

それに伴い学生寮も建設されました。学生寮の名称は『星海寮』大島高校の生徒たちが中心となり選考を行い、多数の候補から選ばれたとの事。

『星海寮』の概要(写真)建設現場は元町字八重の水、敷地面積約四〇〇〇㎡大島高校裏門の斜向かい土砂災害レッドゾーン及びイエローゾーンに含まれず南海トラフ地震を

想定した津波の影響も受けないエリアに建設しています。

建物概要は木造二階建て、一階は約三五〇㎡で二階は約二三〇㎡、床面積は約五八〇㎡になります。建物本体は令和六年度に完成しており、駐車場や駐輪場など外構工事は令和八年度中に完成予定。受入人数は男子九名女子九名の最大十八名を予定。

素晴らしい事業だと思います。各学年の募集人数は男女共各三名の六名程度を予定。既に神津島では開始されているとの事。

伊豆諸島全体の発展の一助になります。皆さんどうぞ宣伝をお願いします。



伊豆大島ドローン講習事業の 近況と今後の展望

株式会社おしんどリーム

取締役 村岡 旦将

私たちは伊豆大島を拠点に、ドローン国家資格の教養をゼロから立ち上げ、これまでに累計卒業生は400名を超えました。事業としても開始から約2年半で売上9,000万円規模まで伸び、受講生の満足度や紹介も含めて着実に広がっています。

島内でも、島民のドローンガイド/インストラクターが6名に増え、島内受講者も30名(自治体職員の方を含む)と、地域の中に「人材」と「運用体制」が育ってききました。

島民の方向けには、より参加しやすいキャンペーン価格のご案内も継続しています。

なお、受講生のうち女性約2割で、今後は女性が入りやすい導線や学び方もさらに整えていく予定です。

また、教育だけで終わらせず「学んだ先の活躍の場」をつくる取り組み

も進めています。

2025年11月には波浮でインドアドローンショーイベントを開催し、観客は約100名。今後は式典・結婚式・地域イベントなど、島内外の場でドローンショーを実施できる体制を整え、観光・地域ピーアール・事業者の集客にもつながる形に広がっていきます。

さらに中長期では、ドローン×AIの教育・

活用(点検、測量、現場の可視化など)も強化し、「人を育てる」だけでなく「地域や企業の課題を解決する」ところまで一気通貫で提供できる事業にしていきたいです。伊豆大島を「学び・実装・発信」の拠点として磨き上げ、島の価値向上にもつながる形で展開していきたいと考えています。

今後ともぜひお力添えいただけましたら幸いです。



株式会社 おしんどリーム

取締役 村岡 旦将

TEL 050-3570-0603 FAX 03-5846-967

Email tanto@odschool.jp

<東京校PV <https://youtu.be/gkRjiliQFsQ>>

東京校公式HP <https://odschool.jp>

浜松校公式HP <https://hamamatsu.odschool.jp>

地球さんご賞って何?

理事長 河野 秀夫

事業計画で承認された

「地球さんご賞」とは、

島の子供達に生命の源で

ある「水」や「環境」に

ついて作文を書いてもら

うことで、生命や環境問

題の大切さと、各島で作

品の募集や表彰を通して

子供の育成を目指してい

く事業です。自分の考え

を文章に書くこと、色々

なことが曖昧であること

に気づきます。正しく見

ているか、深く考えてい

るか、そうした力を島嶼

の環境を通して発信する

ことで身につけるきつかけ

になればと思います。

この事業は2022年

に始まり、全国で6自治

体(八女市、倉敷市、富

土宮市、大田区、富山市、

都城市)が参加してい

ます。事業として進めて

いくためには、事務局は当

郷友連合会が担います

が、子供達やご家庭、各

島の市町村のご理解とご

協力が不可欠です。「子

供は未来を照らす宝」で

す。この主旨に賛同して

もっと詳しく聞きたいと

町村長や島の皆さんから

ご連絡頂ければ新年早々

大変嬉しいですよ。

波浮港の今

NPO 波浮の港を愛する会理事 吉本 浩二

昔から「風待ちの港」と呼ばれてきた波浮港は、かつて漁師たちが嵐や強風を避けて安心して停泊できる場所として親しまれてきました。

島の南端にひっそりと佇むこの港町は、時代の流れとともに役割を変えながらも、どこか懐かしさく落ち着いた雰囲気を守り続けています。現在の波浮港は、日々忙しく働く人々が少し立ち止まりたくなった時に、ふらりと訪れて心を休める「現代の風待ちの場所」となっています。昭和の時

代に賑わった商店街や石畳の路地、港を一望できる景色など、どこを歩いてもノスタルジックさと温かみを感じられ、ゆったりと観光を楽しむことができます。

少し前は、この独特の雰囲気と歴史を守り、町を盛り上げてきたのは、大島へ移住してきた新しい住民の方々が積極的に

活動をしてきていました。近年では、地元の若者や高齢の方々も力を合わせ、移住者と地元の人々が立場を超えて協力し合う温かいコミュニティが育っています。それぞれが無理のない範囲で自分のできることを持

に新しい魅力も加わってきました。個性あふれる宿泊施設が増え、カフェやスイーツを楽しめるお店も生まれ、レンタルサイクルで港周辺を気軽に散策できるようになり、さらにビール工場といった新しい産業も根付き始



ち寄り、助け合いながら波浮港の未来をつくっている姿はとても心強いものです。

また、町には昔から続く名物のクロツケや寿司屋といった変わらない味がありながら、そこ



いつでもどこでも石工事施工します

株式会社 ホーヨーでは皆様からの信頼と繊細な技術で創業以来、数々の工事を受けさせていただいております。

神津、湊響寺での施工実績50件以上！

その他毎年、埼玉・横浜でも数多くの施工依頼をいただいております。

弊社取扱優良霊園のご紹介

【埼玉県】

- 富士見メモリアルガーデン
- 大宮霊園
- 和光聖地霊苑
- 仏子聖地霊園

【神奈川県】

- メモリアルサンステージ
- 横浜セントヒル霊園
- 横浜浄苑ふれあいの杜
- その他、多数の霊園を取り扱っております。

取扱い寺院 埼玉県

- 広源寺：曹洞宗
- 明園寺：天台宗
- 清泰寺：天台宗
- 昌福寺：曹洞宗
- 浄安寺：浄土宗

取扱い寺院 その他

- 光明院：真言宗
- 龍華寺：真言宗
- 大増寺：浄土宗
- 法雲寺：浄土宗
- 自性院：真言宗
- 法雲寺：曹洞宗

株式会社 **ホーヨー**

代表取締役 石井 勇雄

【本 社】 埼玉県富士見市水子4718-1

〒354-0011 本 社 ☎0120-660-089

FAX 049-255-7068

URL <http://www.ishio-hoyo.co.jp/>

伊豆七島 建設業協同組合

事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-4-4 富士ビル 7 階
TEL:03-3436-3636 FAX:03-3436-4730

島出身者がいる法律事務所



弁護士 秋廣道郎(大島)



弁護士 白井裕造(大島)

相続事件

遺産分割、遺留分、相続放棄等

離婚事件

養育費、財産分与、面会交流等

民事事件

交通事故、不動産、債権回収、債務整理等

※上記に限らず、幅広く法律問題を取り扱っています。
お気軽に、ご相談ください。

九段坂総合法律事務所

東京都千代田区九段北 1-3-5
九段北一丁目ビル 5 階 (最寄駅：九段下駅)

TEL.03-3515-8640

FAX.03-3515-8643

メール akihiro@kudanzaka-law.jp

幻の焼酎
さくゆり焼酎



令和初春

農業法人
利島ふあーむ株式会社
代表取締役 前田 清

〒100-0003 東京都利島村68
Tel&Fax: 04992-9-0160
E-Mail: toshima@toshiba-farm.com

<http://www.利島さくゆり.tokyo/>



<139-凛>

<麗>

<華>

<さくゆりの雫>

土木・建築工事一式請負、生コンクリート製造販売
アスファルト混合物製造販売、セメント・建材販売



村松興業株式会社

〒100-0211 東京都大島町差木地字クダッチ無番地

TEL 04992-4-0511

FAX 04992-4-0567

離島特別入試
開設!

その好きを、かなえます。



杉野服飾大学
SUGINO FASHION COLLEGE

www.sugino-fc.ac.jp

服飾学科 (モードクリエーション / インダストリアルパターン / テキスタイルデザイン / ファッション
プロダクトデザイン / ファッションビジネスマネジメント / ファッションビジネス・交流イノベーション)
服飾表現学科 (衣装表現 / スタイリング / VMD / メディア表現)
服飾文化学科 (歴史 × レプリカ製作・修復 × 衣のもののづくり × サステナビリティ)



いい服には、法則がある。

ドレスメーカー学院 学校法人 杉野学園
Doreme

www.dressmaker-gakuin.ac.jp

服飾造形科 / アパレル技術科 / 高度アパレル専門科 /
アパレルデザイン科 [通学課程]



目黒駅
ドレメ通り
徒歩3分

学校法人 杉野学園 | 〒141-8652 東京都品川区上大崎4-6-19 | TEL: 03-3491-8152 | MAIL: kouhou@sugino.ac.jp | JR山手線・都営三田線・東京メトロ南北線・東急目黒線「目黒駅」ドレメ通り徒歩3分



東京諸島で唯一のローカル紙

毎月8日・18日・28日発行

東京七島新聞

東京都島嶼町村会・東京都島嶼町村議会議長会指定広報紙

発行所 東京七島新聞社

〒105-0022

東京都港区海岸 1-4-15 島嶼会館 2F

TEL 03-6459-0292 FAX 03-6459-0094

E-mail sinp@gol.com

郵便振替口座 00160-9-99828

(購読料 1ヵ月 900円)

東京諸島向け広告&PR

Facebook 開設!



<https://www.facebook.com/tokyo7i>

広告とPRは東京七島新聞を
ご利用ください。

購読と広告の申し込み先

本 社	TEL 03 (6459) 0292
大 島 支 局	TEL 04992 (2) 3540 (4) 0064
新島通信部	TEL 04992 (5) 1323
式根島通信部	TEL 04992 (7) 0260
神津島通信員	TEL 04992 (8) 1047
三宅島支局	TEL 04994 (2) 0051
八丈島通信局	TEL 04996 (7) 0014 (9) 5860



明けまして
おめでとうございます。



大自然の東京諸島へ

見て! 食べて! 島をPR

「島らしさ」をキーワードに職員が島らしい働き方を考え実践しています。

- ①ビジネスカジュアルの導入 ②一生のお願い制度 ③島めぐりサポート
④バースデー休暇 ⑤子供の感染症にかかる特別休暇制度 ⑥防災リュック配布
詳しくはホームページの採用情報を参照または直接お問い合わせください。



七島信用組合

〈本部総務部〉TEL.04992-2-1661

Mail:jinji@shichishin.com

<https://www.shichitou.shinkumi.co.jp/>

店 名	住 所	電話番号
本 店	大島町元町 4-1-3	04992-2-0777
東京支店	港区竹芝客船ターミナル内 海岸 1-12-2	03-5843-3363
新島支店	新島村字川原 38-1	04992-5-0661

神津島支店	神津島村 1448-5	04992-8-0111
三宅島支店	三宅村神着 239-1	04994-2-0081
八丈島支店	八丈町三根 1929	04996-2-1201
小笠原支店	小笠原村父島字東町	04998-2-7410

編集後記

白井 勝美

巻頭で島嶼郷友連合会
会長に就任された梅田勉
氏が初めてのご挨拶をさ
せていただいております。
今年度の「島めぐり」
は小笠原でした。理事長
の河野氏が紀行文をした
ためでした。

一方、大変残念な出来
事は台風二二号による八
丈島災害でした。心より
お見舞い申し上げます。

これまでの各島の災害
の際には、八丈島の皆様
から多くのご心配を頂き
ました。梅田会長も「助
け合いの心が伊豆諸島の
文化」とおっしゃってお
ります。早い復旧を心よ
り願っております。

最後に広告を掲載して
いただきました企業様に
感謝申し上げます。今後
共ご支援のほど宜しくお
願い申し上げます。

編集委員

河野 秀夫(理事長・大島)

山口 勝子(大島)

菊池 順(八丈島)

駒木 正雄(八丈島)

清水 邦洋(神津島)

白井 勝美(大島)